

入院中の感染予防対策について ご協力をお願い

榊原記念病院 感染制御室

秋～冬季（10月～3月ごろまで）は、インフルエンザや感染性胃腸炎などのウイルス感染症の流行期です。

当院には、感染症罹患により、重症化しやすい患者さんが多く入院されています。

1. 院内への感染症の持ち込みを最大限に防ぐ。
2. ご自身の感染の機会を避け、予定治療を延期、中断せず最善の体調で受けて頂く。
3. 感染症発生、拡大による複数の患者さんの治療中断や入院制限による病院の機能の低下を防ぐ。

以上の目的のために、次の事項についてご協力お願いいたします。

1. 手をこまめに洗ってください。

すべての感染症を予防する為に最も重要な対策は手洗いです。

病室の入室・退室前後に、病室前に設置している擦式消毒用アルコール製剤、または石けんと流水での手洗いを行ってください。

2. 咳エチケットにご協力ください。

口・鼻を覆わずに咳やくしゃみをする時、飛沫（ウイルスや細菌を含んだしぶき）が1～2m飛び、周囲の人への感染伝播につながります。

- 咳やくしゃみが出る時は、マスクを正しく着用する。（ブリーツを広げ口・鼻をしっかり覆う）
- 使用後のティッシュはすぐにゴミ箱に捨てる。
- 口・鼻を手で覆った場合は、流水と石けんで手を洗う。

3. 不要不急の外出・外泊は、出来る限りお控え願います。

インフルエンザをはじめとしたウイルス感染症は、発症の数日前から感染力を持つ疾患が多数あります。流行期は市中でも同感染症にかかる人が増加するため、それに伴い外出・外泊時の感染リスクも増加します。

外出・外泊される場合は、「マスクを着用」「手洗い」「うがい」を励行し、感染予防に努めてください。

4. 面会者は、最低限に絞ってください。

人の出入りを少なくすることは、感染の機会、感染症の持ち込みを減らすことにつながります。

①発熱②かぜ症状（咳・くしゃみ・鼻水・のどの痛みなど）③下痢④嘔吐⑤発疹⑥耳の下の腫れ⑦眼が赤いなどの症状がある場合は、感染症（インフルエンザ、感染性胃腸炎、はしか、水ぼうそう、三日はしか、おたふくかぜ、流行性角結膜炎）に**かかっている可能性が高い**と判断し、これらの症状がある方の**面会はお断り**しています。

院内で発生すると、病棟全体の患者さんの免疫検査や対策が必要となり、治療に与える影響も長く大きくなります。

療養上、急遽マスクの着用が必要となった患者さんには病院からマスクをご提供します。

その他の患者さんとご家族など面会者の方々には、ご自身でマスクをご準備いただきますようご協力お願いします。（病院内では、1階売店でお買い求めいただけます。）